

調査報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日 調査実施の時間	平成 22 年 3 月 23 日 開始 10 時 30 分 ~ 終了 15 時 30 分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホームふる里 津之郷の家 （ 広島県 ）
評価調査員の氏名	氏名 <u>延 平 和 子</u> 氏名 <u>寺 岡 信 香</u>
事業所側対応者	職 名 施設長・ホーム長・計画担当者 氏 名 高橋 求・池ノ内義昌・和田美由紀 ヒアリングを行った職員数 (2)人

項目番号について
外部評価は30項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。
[取り組みを期待したい項目]
確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。
[取り組みを期待したい内容]
「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家 族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

グループホーム [ふる里津ノ郷の家] 1, 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3471503650	(評価機関で記入)
法人名	瀬戸電設工業株式会社	
事業所名	グループホームふる里 津之郷の家	
所在地	広島県福山市津之郷町大字津之郷1085番地の1 (電話) 084-951-8382	
評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと	
所在地	福山市三吉町南1丁目11-31-201	
訪問調査日	平成 22 年 3 月 23 日	

【情報提供票より】 22年3月10日事業所記入

(1)組織概要

開設年月日	昭和 平成 16 年 6 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	22 人 常勤 14 人 非常勤 8 人 常勤換算 19.1 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨(耐火建築物) 造り 2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分
------	------------------------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	81,000 円	その他の経費(月額)	実費 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (八百円以上は有)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	0 円
	または1日当たり	1,200 円		

(4)利用者の概要(3 月 10 日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	7 名	要介護4	2 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86,8 歳	最低	74 歳	最高	98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	青景医院 いそだ病院 竹山歯科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】 作成日 22年 4 月 10 日

福山西部の田園地帯の広々とした敷地内に立地し、恵まれた自然環境の中にある。事業所内は明るく清潔に保たれていて、利用者の健康管理についても24時間対応の医療体制が取られ、安心して快適な生活を送ることができる。ケア面については、特に利用者の清潔保持に力を入れていて入浴は毎日行うことができる。又地域同士・家族同士が支え合える「ふる里」を目指した理念の実践に向け、家族合同の食事会の開催や、職員間のコミュニケーション強化などを図り、家族から意見が出やすい雰囲気作りに努められている。地域との繋がりに於いては、お祭りの時は事業所の駐車場を提供して地域に向けて働きかけ、地域住民との関係強化に取り組まれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点については真摯に受け止められ前向きに取り組まれている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の意義は理解し職員全員の意見を基に自己評価を作成している。外部評価についても内容については全職員理解をしていて、改善点については日頃の支援の中で取り組まれている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 家族代表・自治会長・民生委員・包括職員・消防団長・職員等の参加により定期的な開催となっている。会議内容は事業所の行事報告や勉強会等が行われ、家族からは多くの意見が出されている。出された意見は職員間で検討し、サービスの向上に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族の意見等は運営推進会議の場や訪問時に聞くことが多く、出された意見は職員間で共有し検討している。その結果日頃の支援の中で実践しサービスの質の向上に繋げている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、地域の盆踊りや公民館行事等に積極的に参加をしている。更に地域主催のお祭りに際しては事業所の駐車場を提供することで、更に利用者や職員が地域の方々と交流する場が設けられ、地域との交流強化に繋がっている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者を地域や家族と共に支え合い、第2第3の「ふる里」となれる存在を目指し、地域との関係を重視した理念を作成している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員毎日朝礼で理念の復唱をし再確認している。日頃のケアに於いては、理念の具体化に向け支援の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会には加入し、地域の盆踊りや公民館行事等は積極的に参加している。更に地域主催のお祭りに際しては事業所の駐車場を提供する等して地域との交流強化に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は理解されている。職員全員の意見を基に自己評価を作成し、外部評価についても内容については全職員理解をしていて、改善点については日頃の支援の中で取り組まれている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表・自治会長・民生委員・包括職員・消防団長・職員等の参加により定期的な開催となっている。会議内容は事業所の行事報告や勉強会等が行われ、家族からは多くの意見が出される。出された意見はサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とは電話等で相談をしたりアドバイスをもらいそれらをサービスの向上に活かしている。		
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の近況・健康状態・金銭管理については毎月送付している手紙や、家族の訪問時に個々に報告している。職員の異動については事業所内の掲示写真で紹介を行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見等は運営推進会議の場や訪問時に聞くことが多く出された意見は職員間で検討して日頃の支援に反映させている。意見箱の設置もある。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は今のところほとんどない。職員が離職した場合でも離職後の訪問が頻繁に行われているので、利用者のダメージは防がれている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は外部研修については職員の自主的参加を呼び掛けており、参加した場合は月一回開かれるミーティングで報告している。内部研修は医療機器の使い方や医療に関する勉強会等を行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域事業所間研修交流会で他の福祉サービス事業所との交流を図り、様々な分野からの情報を取り入れて日常的なケアの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居に際しては本人家族に事前に見学や希望者には体験入居をしてもらっている。新しい利用者には雰囲気に馴染めるよう職員が1対1の対応をしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者は職員に対し感謝の意を表され、職員は言葉の使い方・方言・礼儀等学ぶことも多く、共に支え合いながら信頼関係を築いている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の意向を重視した起床時間・レクリエーションなど希望をかなえた支援を行っている。意思疎通が困難な人は生活歴や表情から思いを組み取り対応している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画作成会議を開き、本人・家族の要望や主治医の意見を取り入れながら職員間で話し合い介護計画を作成している。又作成した計画は家族の承諾を得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>アセスメントやモニタリングを繰り返しながら、本人、家族、必要な関係者と話し合い月1回の見直しをしている。また、状態変化が起きた場合その都度本人、家族、医師、職員等で話し合い現状に即した新たな計画を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況により、他科への受診に同行したり、必要な時に必要なサービスを柔軟にしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の他、利用者や家族の希望のかかりつけ医の受診に家族と共に同行する中で関係を築いている。歯科医の往診支援もあり、夜間や緊急時は協力医療機関での受診が受けられる体制もできている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に向けた指針を作成し説明もされている。また、必要に応じ家族、本人の意向を踏まえながら、医師、職員と連携を取り、事業所として出来る事出来ない事を見極め方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊厳を大切にした言葉かけや対応に心がけている。記録等についても配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調を考慮し思いを聞き、相談しながら希望に添うようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を献立に取り入れ、職員と一緒に会話を楽しみながら食事の時間を過ごしている。出来る方には下ごしらえの手伝い等をしてもらっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本は毎日午後からの入浴となっているが、利用者のその日の体調に合わせた対応をしている。拒否をされる方については、清拭をしたりして清潔保持に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜の収穫・洗濯物たたみ・自室の掃除等役割を持ち本人の力を活かせる機会を作っている。又家族合同による食事会を催す等楽しみごとの支援を行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に沿って買い物や月1回の外出に出かけている。更に季節を体感できる場所へのドライブ等の外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員が施錠することの弊害を理解している。玄関は6時から21時間では開錠して、居室も鍵はかけず、見守りを強化している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練は利用者参加の下全職員により定期的開催されている。防災マニュアルも作成されており、ミーティングで消火器の設置場所等について再確認が行われている。		地域との協力体制を強化する為、運営推進会議の中で消防訓練について提示され、地域住民と共に実施されるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事・水分摂取量に関する情報は記録され全職員が共有しており、病気の人については食事量や形態で調整している。水分摂取量については1200cc～1500ccを目標としている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は不快な音や光もなく、清潔で明るい。居間から見える景色からは季節が体感でき、テレビコーナーを設ける等利用者が思い思いに過ごせる場所となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には畳敷きのところもあり、本人こだわりの品々を持ちこまれていて、利用者の個性が伝わってくる部屋となっている。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム ふる里津之郷の家(ユニット1)

評価年月日 2010年 3月 23日

記入年月日 2010年 3月 10日

記入者 代表/管理者 氏名 池ノ内 義昌

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域同士、家族同士が支え合い、笑顔にあふれる古き良き時代を理想としており、それぞれにとって第2、第3のふる里となれる存在を目指して、日々努力しています。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	目につく所に理念を掲示しています。また毎朝9時の朝礼において、理念を皆で読み上げており、職員一人一人が理念を理解し、実践に向けて取り組んでいます。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族には訪問時等に、繰り返し伝えていきます。また地域住民の方々には、散歩時やホーム見学の場面で、分かりやすく説明をしています。またパンフレットやふる里の利用案内等を活用しています。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩に出かけたりして、地域の人たちと触れ合う機会を作っています。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	秋祭りのお神輿が立ち寄って下さったり、ボランティアの方や小学生の来訪、ふる里の行事への参加等々、ホームへ足を運んで下さっている。またホームとして、町内会に加入させていただいています。		今後は地域の敬老会や運動会等への参加を前向きにしていきたい。また地域から案内をいただいた時は、積極的に参加も行っていきたいと考えています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	以前、地域の方に声をかけ、医療機関の医師を招いて、講演会を開きました。また人材育成の貢献としても、介護実習生の受入れについても積極的に行っています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を全員に説明し、理解を得ております。また自己評価については、話し合いの場を持ち、全員で話し合いを行っています。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね2ヶ月に1度、運営推進委員会を開き、年間行事等の報告やグループホーム等の現在の状況のご説明を行っております。また行事にも参加していただいております。その際、利用者や施設のことをより理解していただけるよう働きかけております。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいたことはありますが、日常的に市町村の担当者との交流はなかなか実現できておりません。		市町村の担当者の方にわからないことがあった際は、相談等に伺うなどしていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	大まかな理解は出来ていると思うが、きちんと把握するまでには至っていない。		研修等があれば、参加していきたいと思います。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講習会があれば参加したり、参加したらミーティング等で他の職員に報告や説明をしています。		研修会等があれば、積極的に参加していきたいと思います。また普段から言葉遣いに気を付け、ご本人が不快に感じるものがどんなことか等、把握していきたいと思います。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 . 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、施設長、管理者とで十分な説明をしています。また不明な点についても、遠慮なく相談していただき、理解を得て、契約をしていただいています。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者としっかり関わりを持ち、言葉や態度、表情などから不満、不安を読み取るよう努力しています。また利用者の不満や意見などは、その時点で話し合い、早期に解決できるように努めていきたい。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月担当者を決めて、ご家族に近況報告等のお手紙を出しています。また、ご家族が面会に来られた時には、更に詳細な報告をさせていただいています。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族が何でも話していただけるような関係作り、雰囲気作りに努めています。又、行事等に参加していただいた時には、感想や御意見を尋ねるようにしています。</p>		ホームの玄関に意見箱を設置しているので、ご家族からご意見が寄せられた場合は、管理者や施設長とも相談し、速やかに対処したいと考えています。
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に1回、ミーティングを行っています。また、職員の記入する業務日報にも気づきや意見が書けるようになっており、施設長や運営者がそれに目を通すようにしています。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>ゆとりのある職員数で、無理のない勤務体制が出来ています。また利用者や職員の状況に応じて、勤務の調整も可能である。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ユニットの職員を固定化し、馴染みの関係を大切にしています。また職員が変わったり、新しい職員が入った時は、利用者きちんと紹介しています。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 . 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が希望する研修があれば、参加してもらうようにしています。またその研修報告も、月に1回のミーティングで発表してもらうことで他の職員の勉強にもなっていると感じます。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修があれば、出来るだけ参加するようにしています。その中で事業所外の方の意見や、経験を聞いて帰り、他の職員への助言やケアに活かしています。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員間の人間関係の把握に努めています。また必要に応じて話をしたり、食事会を開催したりしています。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得に向け、出勤日の調整など勤務に対する協力支援をしています。また、月1回、ホーム独自の自己評価表を各自記入し、向上心を持たせるようにしています。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 . 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談において、生活状況をしっかり把握し、不安を最小限にとどめるようにしています。また契約をする前に、ご希望があれば体験入居についても対応できるようにしています。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族が相談しやすい雰囲気作りを心がけています。ご家族の訴えを聞いて、どのような支援ができるかを考えさせていただいています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じて、他の施設やサービスを紹介しています。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には見学に来ていただいたり、ご希望があれば体験入居を利用していただいて、場の雰囲気馴染めるよう支援しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に生活する中で、家族のような関係づくりに努めています。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と職員が話しやすい関係が出来ているので、利用者本人を支援していく為の協力関係が、しっかり築けています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	月に1回、近況報告のお手紙を出しています。また行事に参加していただいた時や、面会に来ていただいた時等は、ご家族水入らずで過ごしていただいたり、ご本人の思いを代弁したりしています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅の近くへドライブに行き、顔見知りの人に声をかけていただくこともあります。また月に1回来所される美容師さんが地域の方なので、馴染みの人が多くおられます。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事やおやつ時間は、職員も一緒にテーブルにつき、会話を引き出すようにしています。職員が調整役になることもあり、利用者同士の関係がうまくいくように努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	これまでやむなく退所となられた方は、病院等にてお亡くなりになられましたので、現在の時点では該当者はおられません。入院されている間、職員は面会に伺うようにしています。		
．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1．一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	声かけ、見守りをしっかりとし、把握に努めています。 言葉や表情を読み取って、利用者本人の思いを確認しています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人やご家族に、これまでどんな生活を過ごされていたのか伺うようにしています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	勤務者が交替しても、介護記録によって利用者一人一人の1日の様子が分かるようにしています。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、月1回のミーティングで利用者一人一人のケアについて話し合い、後日、管理者以下数名で、作成しています。また主治医の意見、ご家族、ご本人の要望も反映するよう努めています。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に介護計画を見直しています。 また利用者本人の状態等、必要に応じてその都度見直しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルにケア記録、状態、身体的状況、利用者本人の「言葉」等々を記入し、職員間の情報共有を徹底しています。また、この記録を基に介護計画の見直しを行います。		
3 . 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	小規模多機能型居宅介護を併設しており、多機能性を生かした支援はできている。		
4 . 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	大正琴、フラダンス、歌、小学生等、ボランティアの方は定期的に来訪されています。また警察、消防署と連携を取り、救命救急の訓練も行っております。更に職業体験学習や実習生も受け入れています。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	月1回の訪問美容サービスを利用しています。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議や行事等に、地域包括支援センターの職員にもご案内をし、参加していただいています。また、地域包括支援センターが中心となって開催する研修会等にも参加しています。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人やご家族の希望する、かかりつけ医になっています。 また、皮膚科、眼科、外科、認知症外来等、利用者本人、ご家族の希望に応じて受診介助をしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関の医師は、認知症について相談や助言をさせていただきます。また、必要に応じて認知症外来を紹介して下さるので、受診介助をしています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、日常の健康管理や状態変化に応じた支援を行っています。また、協力医療機関の看護師とも密に連絡が取れる関係ができています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、医療機関に情報提供を行い、不安なく治療に専念していただいています。また顔を忘れないように、職員が見舞うようにしています。また、ご家族とも密に連絡を取り合っています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご家族、主治医の協力のもとに、グループホームでもターミナルケアを行っています。現時点では、当事業所では2名の事例があります。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現時点では医療連携体制加算に伴い、「重度化した場合の対応に係る指針」をご家族にご説明させていただいています。ご家族、主治医を交えて、当事業所が出来る支援を考えています。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	急激な変化に戸惑わないよう、これまでの暮らしぶりやケアプラン支援状況等の情報を提供しています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉のかけ方に疑問を感じた時は、お互いに注意し合っています。また個人情報保護については、秘密保持の徹底が図られています。		
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者本人と話をしていく中で、ご本人の希望や思いなどを受け止めています。また食事の献立を決める時には、利用者の希望を聞くこともしています。		
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩、昼寝等、利用者本人の気持ちを尊重しているが、どうしても時間に振り回される事があるので、一人一人の体調に合わせて、ゆとりを持った支援をしていきたい。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご自分で出来る方には、利用者本人の思うようにしていただいています。自己決定が難しい方には、一部介助や全介助しています。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を一緒に考えていただくことがあります。また、もやしや根を取ること等、できる方にはお手伝いをいただいています。食事は、職員も同じものを同じテーブルで一緒に話をしながら、楽しく食べています。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者にお好きなものを聞いて、おやつを選んでいきます。おやつも同じテーブルで一緒に食べるので、違うおやつだとケンカになってしまうこともあります。全員、甘いものがお好きのようです。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄チェック表を記録しているので、利用者本人の時間に合わせてトイレ誘導をしています。また尿意のある方には、訴えのある時に誘導しています。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>全員お風呂がお好きなので、入浴の時間を待ち望んでおられるので、その日の体調が悪い方以外は、毎日入浴されています。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>一人一人の睡眠スタイルを大事にしています。眠れない人には見守りや添い寝をしたり、飲み物を勧めたりしています。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>能力に応じて、お手伝いしていただき、感謝の言葉を伝えるようにしています。また、行事などの楽しみ事は、早めに伝えて、会話が弾むようにしています。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買い物でお金を使える方もいるが、居室にてお金を毎日数えることで、納得され楽しんでいる方もおられます。利用者本人の希望に合わせて、職員は見守りをしています。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>買い物、散歩、受診等、一人一人に合わせた外出支援をしています。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>ほぼ月に1度、買い物やドライブ等、全員で外出する機会を設けています。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で電話がかけられる方は、自由にかけていただいています。ご自分でかけることは難しいが、会話の出来る方には、取り次いでいます。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問しやすい雰囲気を作っています。ゆっくりくつろいでいただけるよう、居室にて話をさせていただいています。飲み物なども季節に応じて温かいものや冷たいものを用意し、提供しています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どのようなものが身体拘束にあたるかを職員は理解しており、研修があれば参加しています。身体拘束をしないケアに取り組んでいます。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	見守りは十分心配りをしています。出かける気配を感じたら、一緒に出かける等して、鍵をかけないケアをしています。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者がどういう状況にいるかを常に把握しながら、見守りをしています。夜間は、1時間毎の巡視に加えて、起きている方の見守りをしています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や洗剤、刃物などは、利用者の手の届かないところに保管しています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人一人の状況を把握し、事故を未然に防ぐ取り組みをしています。また事故報告書とヒヤリハット報告書を整備しており、事故が発生した場合は、状況を正確に記録し、再発防止に努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	適宜救命救急の講習を受けています。また緊急時マニュアル、病気の症状別対応マニュアルを整備しており、夜間時の緊急時対応に備えています。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者と共に避難訓練を行っています。いざという時、落ち着いて避難誘導がしっかりできるようにしたいと感じています。		・避難訓練を年に1回実施 ・消化訓練を年に2回実施
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	片麻痺のある方や「歩いて自宅に帰りたい」と願望のある利用者に対して歩行訓練を共にしています。転倒の危険性を気にするより、歩けることの大切さを分かっていたらいいと思っています。一人一人、症状は違いますが、ご家族には理解をいただいて支援しています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を、職員はしっかりと把握しており、異変があれば主治医に連絡することを徹底しています。またその後の経過についても報告を行っています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容、副作用、用法、用量については個人ファイルに閉じています。服薬時は、必ず2人で名前、いつ服用する薬かを確認しています。その後利用者本人に手渡し、きちんと服薬できているかの確認をしています。異変があれば、主治医に相談を行います。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝食時にはヨーグルト、おやつ時には果物を積極的に取り入れ、またラジオ体操、ストレッチ、散歩等を取り入れながら、水分摂取量や食べ物、運動などに取り組んでいます。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯みがきの声かけや介助を行っています。また就寝前には、義歯の消毒をしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量のチェックをしています。食事摂取量の少ない方には、好物を伺い、食事量が確保できるよう努めています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し、手洗い、うがいの励行、施設内の消毒を行っています。また感染症の講習にも参加し、それをスタッフミーティング等にて発表し、知識を高めています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所用品は、毎晩消毒をし、清潔を心がけています。食材も新鮮なものを購入し、調理時不潔にならないよう、配慮し努力しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	気持ちよく入れるよう、掃除は丁寧に行っています。またベンチ式の椅子を玄関に置き、靴の脱ぎ履きがしやすいよう配慮しています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾りつけは、季節を連想できるものを利用者と一緒に作成しています。またソファでくつろいだり、居眠りをされたり、テレビを見たり、と思いいいに過ごされ、居心地は良さそうではないかと感じます。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思いいいに過ごせるような居場所の工夫をしている	ガラス越しに気の合う人たちが、日向ぼっこをされています。またテレビで時代劇が始まると、居間の周辺に移動しています。日中天気が良い日には、庭を散歩されたり、ベランダに出たりと一人になるスペースを思いいいに作っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される時には、出来るだけ自宅で使われていた馴染みのあるものを用意していただくようお願いしています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日、換気を行っています。利用者の発汗の様子や冷え等に注意して、調節するようにしています。トイレは常に換気扇を回しています。どうしても臭いのこもる所には、消臭剤を使用するようにしています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台は、高さの調節が可能です。また建物内はバリアフリー対応となっており、廊下、浴室、トイレには手すりが設置しているので、安全確保と、自立への配慮はできていると感じます。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各部屋に手作りの表札をかけています。またトイレが分からない方へのために、わかりやすく印を表示しています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	気候の良い時に、中庭に生える草の草取りをしたり、施設から見える田んぼの稲の生長を一緒に見たりしています。		

・サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の方達にとって、第2、第3のふる里とだけ思っただけのような環境作りをしています。また地域住民の方が、自由に気兼ねなく、立ち寄れる雰囲気作りを目指しています。利用者の居室は、外への出入りがしやすいものとなっています。

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム ふる里津之郷の家(ユニット2)

評価年月日 2010年 3月 23日

記入年月日 2010年 3月 10日

記入者 代表/管理者 氏名 池ノ内 義昌

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームふる里の理念は、地域・家族が支えあい、その方にとって「第2、第3のふる里」となれる存在を目指すというもので、その理念のもとにケアを行っています。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ふる里の理念は、ホール・玄関・トイレ等の普段目に付く場所に掲示してあります。また毎朝の朝礼にて職員でふる里の理念を読み上げています。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族には、入居時や行事などの折にホームの理念を説明しています。地域に対しても、見学会や行事等にホームの理念についてもお話させていただいています。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に、散歩等に出かけています。その際、地域の方と挨拶をしたり畑についての話をします。畑の作物をいただいたり、お花をいただいたりすることもあります。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームとして町内会に加入しています。秋祭りなど地域の行事にもできるだけ参加をしている。また、小学生、中学生のボランティアが来訪してくれるなど地域との交流もある。	町内会の敬老会に参加出来る方には参加していただくよう支援していきたい。また町内会の行事（指圧、料理等）や高齢者に関する行事などには参加していきたいと思います。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	高齢者介護に関する講演会を開催し、地域の方にもご案内させていただきました。今後も人材育成など事業所が地域にどのように貢献できるか積極的に取り組んでいきたい。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はスタッフで話し合い取り組んでいます。また外部評価でアドバイスいただいた点は取り組むようにしています。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会にて年間行事等の報告や、ホームの現在の状況の報告を行っています。また高齢者への支援についてご意見を頂いています。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議へ参加していただきましたが、普段はなかなか市町村の担当者と積極的な交流は持てていない。		これからも市町村の担当者に運営推進会議に参加していただけるよう働きかけを行っていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見制度については、おぼろげながらの理解にとどまっており、きちんと把握するまでには至っていないと思われます。		研修等があれば、参加して理解に努めたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の講習会に参加するようにしています。また普段から高齢者虐待が見過ごされないよう注視し努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、施設長と管理者とで説明をしています。また重要事項説明書にてグループホームの機能、ふるりの理念、利用料金、医療連携体制、個人情報の取り扱いや退去時の説明などを行っています。また分からない点も確認し、十分な理解を得て契約をさせていただいています。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホームの玄関に意見箱を設置しています。また重要事項説明書に第三者機関を掲載し、そちらへもご意見を寄せることができるようにしています。意見が寄せられた際には、運営に反映させていきたい。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の暮らしぶりや健康状態、また購入したものについては、毎月請求書と一緒に同封するお手紙にて報告しています。ホームでの過ごし方がよく分かると毎月お手紙を楽しみにされているご家族もおられます。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホームの玄関に意見箱を設置しています。また不満・苦情に関する第三者機関を重要事項説明書に明示しています。意見がよせられた際には運営に反映させていきたい。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月開催しているミーティングでは、意見を述べる機会があります。またスタッフ用の意見箱も設置しており、そこに意見を入れることもできます。あるいは業務日報に意見や気づきを記入し、運営者や施設長が目を通すようになっています。</p>		<p>ミーティングに参加出来ない時は、意見を書いたメモを預かることもしていきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>日中は無理のない勤務体制ができていていると思います。また行事などでは勤務時間の調整を行うなどし、必要な時間帯に必要な職員を確保できるように努めています。</p>		<p>週末等のスタッフがよりゆとりある勤務体制ができればと感じることもあるので、相談していきたい。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>顔なじみの関係を大切にしているので、職員はユニット固定性にはしています。異動は極力最小限にしているが、異動する場合は、職員・利用者には負担がかからないように十分に配慮を行っています。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 . 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員が希望する研修には、出来るだけ参加できるように支援しています。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修があれば、出来るだけ参加するようにしています。その中で事業所外の方の経験やその事業所での方針などを伺い、ホームで取り入れたり、ケアに活かすようにしています。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営法人の主催するのビーチバレー大会や、年に数回の食事会を開催し、スタッフが楽しく食事をしながらストレスを解消できるような機会を設けています。</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>研修会の予定資料を配布し、参加する場合は出勤日の調整など協力支援をしています。また月に1回、ホーム独自の自己評価表を各自記入することで、目標を持ち、向上心を持たせるようにしています。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1 . 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前に、現在生活されている場に面談に伺い、生活状況を把握するよう努めています。また、利用に不安を持たれる方には、体験入居にも対応し、入居前にふる里の生活を体験していただき、不安を軽減できるように努めています。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族が相談に来られた際は、ご家族の訴えをしっかりと伺うようにしています。どのようなことで困っているのか、辛かったことなどを受け止めながら、ふる里でどのように支援できるかをしっかりお話させていただきます。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早期に入居を希望される場合で、ホームに空室がない場合は、他のグループホームや小規模多機能サービスなどをご紹介するなどの支援を行っています。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に際しては、可能な限りご本人に見学にきていただいている。また併設の小規模多機能ホームを利用させていただいてから、入居をされた事例のあります。ご本人に合わせ、サービスの利用開始を援助しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	援助する側、される側というのではなく、お互いが支えあう関係になっています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご本人にとって家族はかけがえのない人であるので、スタッフだけでなく精神的な面からも家族に訪問していただき、一緒に支えあえるような関係づくりを目指しています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族が面会に来られた際は、ホームでの近況をお話しています。またホームでどのように過ごされているかスタッフが家族へお手紙を書いており、それが入居者との会話の種もなります。行事にはできるだけ参加して頂くなど本人とのよりよい関係作りを心がけています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣接のデイサービスを利用されているお友達が面会に来られたり、また散歩をしながら馴染みの人と交流ができるよう関係継続の支援をしています。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	スタッフが間に入り共通の話題について、話ができるよう利用者同士の関係の支援をしています。時に、ご本人がスタッフを仲間のように気遣ってくださることもあります。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ホームを退去された方のご家族が、今でも野菜などを差し入れてくださるなど、継続的な関わりが見られています。また入院されている間も、スタッフはお見舞いに伺うようにしています。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段から「何処へ行きたいか」「何が欲しいか」「何が食べたいか」などを話題にして意思の把握に努めています。意思の表現が難しい方には選択肢で選んでもらうように工夫もしています。またご家族から好みなど教えていただくこともあります。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者ご本人やご家族に、これまでどんな生活環境で過ごされていたのか伺うようにしています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の介護記録は、日中・夜間共に詳しく記録をするようにしています。記録にはどのように過されたのか、どのような会話をしておられたのかなど出来るだけ具体的に記録をするように心がけています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、家族（本人）、主治医、スタッフの意見を盛り込んで作成しており、少人数で集まってカンファレンスを実施しています。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は現在、毎月見直しを行っていが、状態の安定している利用者に対しては中期的、長期的な計画も検討していきたい。また状態に変化が見られた場合には、介護計画を変更したり、新たな取り組みを盛り込むなど迅速に対応していききたい。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録は、細かく記入できるようになっています。計画の実施状況、結果、気づきなども記入しています。また介護記録以外にも運動チェック表、睡眠チェック表等を活用しており、介護計画の見直しにも活かしています。また伝達ノートは出勤したら必ず目を通すようにしています。		朝、夕のショートミーティングも有効に活用していきたい。
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在、多機能性を活かした支援は実施できていない。		グループホームの短期利用共同生活介護開始ができるよう体制を整えていきたいと思います。
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的に、フラダンス、大正琴、小学生等のボランティアが来てくださり、入居者の生活を支援してくださっています。また職業体験実習などとも連携し、支援を行っています。また消防署等とも適切な連携を図り、救命救急の訓練を行っています。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望に合わせて、地域の理美容師さんに訪問していただいています。ほぼ毎月来てくださるので、馴染みの関係になっており、整髪しながら楽しくお話をされています。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加していただいています。また、地域包括支援センターが中心となって開催する研修会等にも参加しています。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の希望されるかかりつけ医になっています。内科以外の認知症専門外来、皮膚科なども希望される病院まで受診介助をさせていただいています。ご家族の同意の下、スタッフもホームでの様子をお伝えし、どのように対応したらいいのか指示を仰いでいます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関の医師は、認知症について相談でき、適切な指示や助言をして下さいます。また、認知症専門外来への受診もあり、認知症専門の医師とも信頼関係を築いています。		皮膚の湿疹等の皮膚トラブルを抱えている利用者が多いので、今後は皮膚科の医師との連携も検討していきたい。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホーム内には看護職員がおり、日常の健康管理以外にも急変時など対応できています。また協力医療機関の看護師とも連携が密にとれる体勢をとっています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には利用者の不安感が少ないよう情報提供をしています。また、入院中もお見舞いに伺い、現在の状態や、今後について情報交換を密に行い、早期退院に向けた支援をしています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化やターミナルケアについては入居時に「重度化した場合の対応に係る指針」について説明を行い、ご家族、主治医を交えて、ホームができる支援を考えています。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルケアの実践例はありません。しかし、ご家族、本人の希望があれば、どのようにして対応をしていくか密に連携していきたい。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の施設へ入所される場合の面談には、積極的に情報提供を行うように心がけ、利用者がホームでどのように過されてきたかをお伝えしています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>スタッフは入居者やご家族の個人情報保護について秘密保持の徹底をしています。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者に寄り添い、本人がどのように思っているかしっかり読み取るように努力しています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ある程度の一日の流れはあるものの、体調に合わせて昼寝をされる方、散歩に行かれる方、新聞を読まれる方、買い物に行かれる方等、それぞれのやりたいことを大切にしています。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>お肌に気を遣う利用者さんもおられ、その方に合わせた身だしなみの支援をしています。理美容は、地域の理美容師さんをお願いしており、整髪や毛染めなどそれぞれの希望に合わせて支援しています。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事は、利用者・スタッフが同じものを同じ時間に食べるようにしています。食事はスタッフの手作で、一緒に料理本を読みながら献立を考えることもあります。また、野菜の皮むき、もやしの根とり、配膳、配茶などできることをお手伝いしていただいています。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お酒を飲むことが好きな方に対しては、外出時に飲まれることもあります。また「炭酸飲料が好きだから」とか「おやつを食べることが好きだから」等によりご家族からの差し入れもあり、ご本人の嗜好に合わせた支援ができています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>できるだけ、おむつやリハビリパンツを使用をしなくても済むように支援しています。また排泄チェック表を参考にしながら、その方に応じた排泄の声掛け、介助を心がけています。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴は、本人の希望があれば毎日入浴できる体勢を整えています。よってユニットのほとんどの利用者の方は毎日入浴されておられます。入浴後の水分補給をされている姿をみると入浴を楽しんでおられるように感じています。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>なるべく日中は活動していただき、夜間に十分な睡眠をとれるように取り組んでいます。夜間、不眠がみられる場合には専用のチェック表を用いて記録を行い、定期的に主治医、認知症専門医に相談するようにしています。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>利用者に応じ、食事を食べる時の挨拶や食事の下ごしらえ、洗濯物たたみを等その方の能力に合わせた役割を持っていただいています。また、レクリエーションや買い物へ行くことで楽しみを持ち、気晴らしできるよう支援しています。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>全ての入居者がお金を持たれてはいません。普段お金を持たれていない方へ対しては、ホームの買い物の支払いをして頂く機会を作るなど支援を行っています。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>買い物や施設見学、ドライブ、外食なども利用者の希望を聞きながら実施しています。また個別に買い物や散歩へ出かけたり、受診の為に外出することもあり、それぞれにあわせた外出支援ができています。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>普段から「何処に行きたいですか?」と話し合っています。また出来るだけ月に1度、外出できる機会を設けるよう努めています。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら家族に電話をしたいときには、それに応じた支援をしています中には、母の日にプレゼントが届く方もおられるので、電話や手紙にてお礼などを伝えるような支援もしています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族には気軽に訪問しやすい雰囲気づくりに努めています。訪問時間も特に定めておらず、都合のいいときに訪問していただけるようにしています。訪問時には飲み物を提供し、ゆっくりお話ができるように支援しています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフは、どのようなものが身体拘束であるか、禁止と対象になる行為を理解しており、身体拘束の弊害を十分に理解しています。身体拘束をしないケアに日々取り組んでいます。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関に鍵をかけていません。よって出て行く気配を見落とさないように、見守りには十分心配りをしています。また、出かける気配を感じたら、引き止めずに一緒に出かけるなどして鍵をかけないケアに取り組んでいます。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、夜間の記録を書くときは、廊下が見渡せる場所にて利用者の様子を把握しながら記録するように決めています。日中のスタッフの仕事は時間によって分担しており、見守りのスタッフが配置できています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	消毒用の薬品や内服、外用薬、刃物等は利用者の手の届かない場所にて保管しています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書とヒヤリハット報告書を整備しており、事故内容とその対策を考えて記入するようにしています。報告書の内容はスタッフに伝達し、再発防止のために活用しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時に備え、緊急時マニュアルと病気・症状別対応マニュアルを整備しています。また消防署に協力を依頼し、普通救命講習を開催している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災などの災害時における対応をミーティングにて話し合うようにしています。また利用者と共に避難訓練を実施し、落ち着いて避難誘導できるように今後も取り組んでいきたい。		避難訓練を年1回実施 消火訓練を年2回実施
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	危険が伴うこともあるが、その方を尊重した暮らしの重要性を説明し、理解を得るように努めています。また、転倒などの危険性についても十分にご説明し、スタッフもできる限り怪我の無いように配慮しています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	「あれ？おかしいな？」と感じたらスタッフとその場で話し合っています。施設長への報告や必要時に応じて主治医に相談し、速やかに対応するようにしています。またそのことを記録に残し、伝達するようにしています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服薬されている薬については個人ファイルに整理しています。また服薬介助時は必ず2名で「名前、服薬時間」の確認をするようにしています。また間違い防止の為に色分けする工夫もして服薬できたか最後まで確認するようにしています。症状に変化のある場合は主治医に指示を仰ぐようにしています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の方が多く、朝のラジオ体操・ストレッチ時には必ずお腹のマッサージを取り入れています。おやつにはできるだけ牛乳やヨーグルトを取り入れ、食事でも繊維質食材を効果的に取り入れています。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に歯磨き、うがいを声掛けています。またその方に応じた口腔ケア用品を用意しています。(デンタルリンス、ハミンググッド等)さらに就寝前には義歯の洗浄を行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量は毎日チェック表に記録しています。特に水分は摂取量の少ない方がおられるので重点的に水分の把握を行い、こまめに水分補給をしていただき、一日1500cc以上摂取できるよう支援しています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い、うがいの徹底を心がけています。また、感染症対策マニュアルを整備し、正しい対応が取れるようにしています。マニュアルは医療機関、保健所より指導を受けたものになっています。施設内の消毒は時間を決めて徹底しています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、ふきん、スポンジなどは毎晩消毒を行い、台所は清潔を保つようにしています。食器洗浄機は週に1度消毒を行っています。冷蔵庫も定期的に消毒を行い、同時に食材の賞味期限の確認も行っています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には入居者の方と一緒に作った表札を飾っています。またスタッフが季節にあわせたイラストと、メッセージも一緒に置いています。室内履きは子供用サイズも用意しており、気軽に安心して入りやすい環境を目指しています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	座り心地のよいソファーにはいつも入居者が集まっておられます。畳の居間も明るく過しやすいと思われま す。枕やクッション、座布団やタオルケット(冬季には毛布)などを準備し、自由に過していただけるようにしています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所つ くり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースに限りがあるので、一人で過す場所は少ないかと思われます。しかし、ベランダ側に誘導して過していただいたり、テーブル席へ誘導したりすることで、お一人になれるスペースができるよう配慮しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際は、家具などを新調するのではなく、できるだけ自宅で使われていた馴染みのある家具、洋服、小物などを用意して頂くようお願いしています。家族の方も写真や手芸道具、雑誌などを持って来てくださり、その方が過ごしやすい環境になっていると感じます。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室内に湿温度計を設置しています。スタッフが心地よい温度に調節するのではなく、入居者に合わせるように声掛けし、適温かどうかを確認して調節しています。また、毎日定期的に換気を行っています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面所は、高さが調節できるように可動式になっており、浴室には手すりを増設しています。居室のトイレにも手すりがあります。建物全体はバリアフリー対応になっており、その方に応じて安全で自立した生活ができるように工夫しています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室には手作りの表札をかけています。利用者が間違われることが少ないが、迷われた場合にはスタッフが声掛けをしています。また施設全体としては扉の多い作りになっているためユニットの入口等にもわかりやすく表示しています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭には花を植えており、季節に応じた花を楽しんでいただけるようになってきました。気候の良い時に一緒に草取りをすることや散歩が日常的にできるようにしています。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホームは、街中ではなく田舎にあります。散歩をすれば畑や田んぼの作業をされている地域の方とふれあうことができるという特性を持っています。また、最初の開設時に比べてグループホームへの理解がすすんできているように感じ、地域に溶け込めるようにさまざまな行事を企画したり、ボランティアや研修生の受け入れによりふる里のケアがどのようなものかの理解を得られるようになってきていると感じます。またスタッフは、本人が何を求めているのか、それに応えるにはどのようにしたらいいのかを積極的に考え、前向きに努力しています。ケアは一人でするものではなくスタッフ全員でするものと捉え、協力していくことの重要性も理解していると思います。